



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

昨年10月の明け方、左下腹部の激痛で目が覚めた。診断は間違いない。尿管結石だ。痛み止めの座薬を入れた。痛みがましになったところで通常通り出勤した。

超音波検査とレントゲン検査では、左の腎臓が少し腫れていて、左の尿管に7ミリの結石の影が写っていた。

K病院泌尿器科の先生にお願いし、翌週、結石を体外衝撃波破碎装置で割っていただいた。破碎装置はレントゲン透視台と衝撃波発生装置が組み合わさったもので、衝撃波発生部を結石近くの背中に当てて、そこ

## 〈4〉尿管結石

から結石に焦点を合わせた衝撃波を出して割るのである。パンパンと何回も衝撃波を当てると痛い、痛み止めを使うので大丈夫だ。

破砕片を出すために、水分を多く飲んで尿を多く出すようにしたが、その日の夜が大変だった。

血尿が出て左の脇腹に激痛が走り、立っていられなかった。破砕片たちが尿管を降りて来ているのだ。座薬も効かず、強い痛み止めを飲んで痛みが治まり少し

だけ眠った。

結石の破片は2〜3日後、何回かに分けて尿に混じって出た。成分はシュウ酸カルシウムであった。尿管結石の多くがこの成分である。水分の摂(と)り方が少なかったり、シュウ酸が多く含まれている食物を摂ったり、偏った食事を続けると尿管結石症になりや

道から尿管に通して直視下に結石を破碎・摘出する手術が必要である。

大学の先輩は食道がんの手術で有名な先生であるが、結石持ちである。私が最初に尿管結石になった時、「君もやっと一人前の外科医になったな」と言われた。水も飲まずに手術に励まないと一人前にならないぞうだ。

結石は、小さいものは多くは自排するが、ある程度大きくなると破碎が必要となる。大きかったり、尿管の壁にはまり込んでいたりして、体外衝撃波で破碎しても出て来ない結石もある。そのような場合、麻酔をかけ、細い内視鏡を尿

道から尿管に通して直視下に結石を破碎・摘出する手術が必要である。大学の先輩は食道がんの手術で有名な先生であるが、結石持ちである。私が最初に尿管結石になった時、「君もやっと一人前の外科医になったな」と言われた。水も飲まずに手術に励まないと一人前にならないぞうだ。

古く友人は両方の腎臓に大きな結石ができたため、何回も体外衝撃波で治療を受けたとのことである。しかし、結石は完全には出ずに、尿管をふさいだり、感染が何回も起こったりして、時間の経過とともに両方の腎臓の機能は廃絶してしまっている。もっと早く私に相談してくれたらと悔やまれない。